

## 初秋の韓国低山歩き ② (2014.9.27～10.1)

関根 茂子

### ◆9月29日(土)前号より続き

ほどなく谷向うに清凉寺の屋根が望め、ナギナタコウジュや野菊を愛でながらゆるゆる行くとお寺に9:00着。売店があり人もいる。不要の荷を預かってもらえないかとお願いするがだめだった。しかたなく、重たい荷を背負って(9:15)登りだすとすぐに石段道の急登になる。

雨はたいしたことが無いので、傘は折り畳んで手に持ったままロープ柵や木柵を頼って体を引き上げながら黙々と登る。気がつくと傘の柄がなくなっていた。ねじが緩んで本体から抜けてしまったようだ。後から登ってくる仲間に「落ちていたら拾ってきてえー」と叫ぶ。

お寺から35分で尾根の鞍部に9:50着、仲間の到着を待つ。叫び声を聞く前に落ちている傘の柄を見つけたので「手すりの柵の上に乗せてきた」とのことだった。平日でこんな天気では登山者もいないだろう。鞍部の大きな木の根元にザックはデポして山頂を往復することに衆議一決。

尾根道を登ったり下ったり、去年の夏の大屯山(テドンサン)にもあった吊り橋と同様の雲の吊り橋が現れる。この雲の吊り橋は2008年に完成、長さ90m、高さ70m、幅1.2m、韓国で最も長く最も高いところに架けられているとのことだ。この辺りは紅葉が始まっていて橋の先には岩峰も見える。渡っ



文人峰山頂

た先は岩道ではなく整備された階段で12の峰の1つの文人峰に10:45登頂。

戻る途中、にぎやかな声が聞こえてくる。吊り橋を渡る若い登山者グループの声だった。鞍部に戻ると尾根続きの鉄階段を下りてくる登山者に会う。これも若者で韓国の登山者は若者が圧倒的に多い。再び荷物を背負ってお寺まで33分かかり、登りも下りもほぼ同タイムだ。下りついた境内は女性参拝者で溢れていた。売店で清凉山の地図が印刷されたバンドナ(3,000ウォン)を記念に買う。

雨模様なのでお寺からの下りは一番近い車道をとったら、これがまた急坂続き、滑りそうで怖かった。それでも25分で奉化行きのバス停に13:05着、バスが出るまで1時間以上ある。おなかも空いているので、飲食店のある下のバス停まで15分歩き、ネギとイカのチヂミ=パジョ(一皿10,000ウォン)を食べる。温かくておいしかった。食後、初物の柿もサービスされた。

14:30発の奉化行きのバス(@1,200ウォン)に乗り込むと先客の若い男性がアツという表情をうかべる。お寺への下山途中で行き違った人だ。車内で韓国語の分かるSさん、Tさんとの会話がはずんでいた。約40分後、奉化バスターミナルに着くと「鉄道で三陟(サンチョク)に帰る、日本語を勉強している」という彼が太白市行きのバス時刻や運賃(@11,500ウォン)を調べて教えてくれる。案内してくれたバスに乗っていると、彼が乗ってくるではないか! 鉄道は時刻が合わないのでバスで行くとのことだった。

バスは最初、奉化行きのバスが通った道に戻って、鉄道線路を渡ったり線路沿いに走ったり、件の青年は「お母さんに会うと連絡したら迎えに来たのでここで下りる。最後までお手伝いできなくてすみません」との日本語のメモ(スマホの自動翻訳)を残して途中のバス停で降りていった。そのうち山間部のカーブ続きの峠道を越えたバスは1時間40分走っ

て太白に17:30着。

バスターミナルの並び先に、鉄道の太白駅があり観光案内所に行って今夜の宿を探してもらう。民宿は太白山の下にはいっぱいあるが、駅近くにはないとのことだ。この時刻からまたバスに乗って民宿へ行くのはもうイヤ。バスターミナル裏のドンアモーター(1室80,000ウォン@16,000ウォン)に泊まる。バスターミナルで太白山行きの始発時刻を調べ、明日の仁川空港行き的高速バス切符(@39,900ウォン)を購入して宿に入る。

モーターは昨夜のより広く、バスタブもあって設備も上々。荷物を置いて夕食に外出、宿の前の食堂でチゲ鍋(@7,000ウォン)を食べる。メニューは文字表記で絵はない。具は不明なので、無難な豆腐鍋を頼んだ。Tさんだけ天山鍋に挑戦するといろいろな野菜が入った鍋だった。次回、チゲを注文する機会があったらわたしも天山鍋にしよう。

明日の山用にリンゴを買う(3個で5,000ウォン)品質も価格も安東産が優れていた。天気予報を見るつमोरのTVから御嶽山の火山噴火ニュースが流れてきてびっくりだ。予報は朝から雨、明日の太白山は諦めて石炭博物館見学に切り替えることになった。太白市は日本統治時代から石炭の産地で炭鉱の町として栄えたとか。

## ◆9月30日(火)

予報通りの雨模様だ。寒さ対策もあって雨具に身を固めて出発。太白山行き市内バス(@1,100ウォン)は運賃先払いだった。細長い太白市街を走って川を渡ると郊外に出た。民宿村を過ぎると堂谷(タンゴル)バス停8:35着(市内渋滞ありで所要25分)

駐車場脇から太白山方向への車道を歩き出すと建物があり入場料@2,000ウォンを支払う。温度表示は11℃、雨具の上下着用でちょうど良い。小雨の登山口広場には全く人影がなかった。右手へ上って石炭博物館を見学する。S姉がいうには「1995年に沢登りの帰途、寄った時には貧相な博物館だったのに、地下1Fから地上3Fの立派な大きな博物館に変わってびっくりだ」

1階の鉱物展示はハングルの鉱物名は意味不明、さっぱりわからなくても巨大な宝石原石には目を奪われた。当時の石炭採掘方法の展示をみて3階から

エレベーターに乗ると大音響とともに地下1階の体験坑道に下りつき、そこを通りぬけると出口となる。

小雨の登山口広場に戻るとナップザック姿の一群が広場奥の建物に向かっている。行ってみれば売店でビニール雨合羽を買っていたのだ。10時半のこれから太白山に登るのだ。若いから貧弱な装備でも耐えられる? 私たちは、ちょっと心配になったが、バス停に戻り10:40発太白市バスに乗車、先払い運賃で行きと同じ@1,100ウォンを用意していたが、運転手は@1,300ウォンというのだ。言い争うこともできずに支払うしかなかった。

バスターミナル11:00着、チヂミを求めて街中を歩く。絵を見て何とか探し当て、ネギ・キノコ・アサリ・イカ入りのあつあつのパジョ(2枚で14,000ウォン)を食べる。宿に預けたザックを回収して13:00発仁川空港行き高速バスの人となる。

どこをどう走っているか分からないが「堤川バスターミナル」の先で巨大なサツマイモ像を、次に巨大な「モモ」像を車窓から見る。その辺りが一大産地なのだろう。高速道路並の一般道を離れ15:27、甘谷ICから高速道路に入り、金浦空港に立ち寄り17:35、仁川空港に到着した。ホテルの無料送迎車を頼みスカイホテル18:05着。

昨年のサムゲタン(@12,000ウォン)の専門店に行く。会計係から@33,800ウォン返金がありスーパーでお土産にトウモロコシ(オクスス)茶と黒米を買った。

## ◆10月1日(水)

7:50発で仁川空港に送ってもらう。8:00には空港着、搭乗手続き後の手荷物検査は長蛇の列!アジア大会のせいなのか? こんな混雑は初めてだ。出国審査が終わったのは搭乗時刻の5分前、格安航空便のゲートは端っこで遙かに遠い。早足で搭乗口に行けばなんと1番乗り、みんな遅れていたのだ。後から後から乗客が乗り込み、飛行機は満席となって10:45離陸、機内販売のカップラーメン@5,000ウォンが食料を買い込めなかった乗客によく売っていた。成田には13:00着。

登れた山は一つだけだったが、おいしいものを食べられて満足! 格安の山旅を楽しめS姉には感謝、感謝である。来年は太白山に再挑戦したいものだ。(終り)